

山行報告

神山(5月24日)

参加者 会員(視覚障害者4名、健常者6名)
会員外(視覚障害者2名、健常者3名)

『山仲間アルプ』の第2回目の山行を、箱根の神山で実施しました。

このところ、天気予報はますますなのですが、雲が多くあまりぱっとしない天気が続いていました。山行当日も、雲が多く稜線では、風もあってかなり寒かったのですが、それでも時々薄日も差して、ますますの山行日和でした。

箱根湯本の電車の時間を間違っていて、現地集合のみなさんには、心配をおかけしてしまいました。以後、気をつけますので、お許してください。

強羅からケーブルカーに乗り継いで着いた早雲山駅から登りはじめます。ヤマツツジの咲く登山道をゆっくりと登っていきます。登っていく方向を見ると、鮮やかな新緑が目にも優しく飛び込んできます。

今回は、登山がはじめての視覚障害者の方(Tさん)も参加しました。今まで経験したこ



とのない登山道を歩くのは、健常者の何倍も疲れることと思います。歩き方の要領もまだつかめていないため、気が付
アカバナヒメイワカガミ い



たところをアドバイスしながら登ります。

段差のあるところでは、斜面を蹴飛ばすくらい段差に近づいてから、できるだけ垂直方向に体重を移動しなければなりません。平地と同じように、前へ前へと言う登り方では、体力を消耗することを理解していただきました。また、必ず右左と歩くのではなく、大きな段差のところでは、一旦段差のすぐ下まで近づいて、両足をそろえてから片足を上に上げた方がよいことも説明し、理解していただいたと思います。

最初の頃はぎこちなかった登り方も、次第に要領をつかめてきたようで、スムーズに登れるようになってきました。

しかし、なかなか1,244mの早雲山に着きません。あそこがピークだと何度も言いながら、その都度間違っていて、申し訳ないことをしてしまいました。

それでも、12時にピークに到着し、昼食にします。食事風景をビデオに収めて、また上を目指します。お中道の分岐を過ぎると、次第に道が岩混じりになって、歩きにくくなってきます。しかし、何やら三脚を立ててカメラを構え

ている人がいるなと思ったら、今回のお目当てのアカバナヒメイワカガミが咲いているではありませんか。さらに行くと、一面をピンクに染めて咲いています。みなさんの歓声がひととき高くなりました。私は少しの時間、撮影タイムをいただき、かわいい花をカメラに納めます。

通行止めとなっている大涌谷への分岐を過ぎ、神山への登りにかかります。このころになるとTさんはかなりこたえたようで、足下がふらついてきました。落ちるような危険なところはありますが、もう山頂かなと思うと、まだ先だということを何度も繰り返し、Tさんもそんな話を信じなくなった頃、ようやく神山の山頂に到着しました。三角点に触ってもらい、そこが山頂であることを確認してもらいます。ものすごい量の汗をかいたTさんは、肌着からTシャツまで着替えます。

山頂を過ぎると、しばらくは下りです。視覚障害者の方は、一般的に下りが苦手なのですが、Tさんは、順調に歩を進めています。所々、鮮やかなピンク色のミツバツツジが目立ってきました。坊ヶ沢とお中道への分岐を過ぎた気持

幕山(6月8日)

参加者 会員(視覚障害者5名、健常者9名)
会員外(視覚障害者1名)

天気予報は、今ひとつすっきりしませんでした。登山が始まると、日差しが照りつけ、みなさん大汗をかきながら登りました。

今回は、当初鍛冶屋から南郷山経由で幕山を目指す予定でしたが、下の幕山公園でバーベキューをすることになり、幕山登山口からの往復に切り替えました。本来は、ここまでバスが入らず、不便だったのですが、車を出してくださったNさんが何回も往復してくださったおかげで、登山時間が短縮でき、バーベキューも十

分の良いところで休憩し、最後の駒ヶ岳を目指します。岩場を慎重に登って、最後の草原を登ると、箱根元宮のある駒ヶ岳山頂に到着します。しかし、山頂は風が強く寒いので、すぐにロープウェイまで下ります。窪地には、タンポポが一面に咲いていました。

今回は、サポートがはじめての方も参加していただきました。こちらの事前の説明不足な点もあったと反省していますが、みなさん、楽しんでいただけたでしょうか？ 最初はなかなか難しいかも知れませんが、登山を障害の有無に関わらず共に楽しむことを、大きな目的にしていますので、花の写真を撮ったり、展望を楽しんだり、まずは自分自身が楽しむことを考えてください。その合間にサポートをする程度でかまいません。何回か経験して余裕ができてくると、サポートしながらも十分に楽しめるようになります。これに懲りず、またよろしく願います。



分楽しんでバーベキューを楽しむことができました。Nさん、本当にありがとうございました。

登山道は、特に危険なところもなく、のんびりと歩くことができました。ひとつだけ、みなさんを苦しめたのは、暑さでした。ですが、それも時折吹いてくるさわやかな風に助けられ

て、全員山頂に到着。山頂で少しゆっくりした後、バーベキューを楽しみに下ります。



登山道には、これはと言う花は咲いていませんでしたが、ジャコウアゲハがたくさん舞っていました。

下に降りると、幕山公園で、バーベク

ューの開始です。みんなで材料を串に刺したり、炭に火を付けたり、鉄板で肉を焼いたりと忙しく働きながら、おいしくそしてたくさんいただきました。ビールも準備していましたが、これ

子ノ権現(4月10日)

参加者 会員(視覚障害者3名、健常者6名)

梅雨らしいはっきりしない天気が続いていましたが、この日だけは素晴らしい天気恵まれました。

西吾野に降り立って、今日は暑くなりそうだなと覚悟したのですが、歩き始めの樹林帯は意外と涼しく、稜線に出る付近からは、心地よい風が吹いて涼しさを運んでくれました。

まず西吾野の駅からは、国道299号線を行くのですが、子ノ権現に続く細い道路に入ると、いきなり岩の上を一杯に埋め尽くしたユキノシタが現れました。こんな光景は初めて見たので、しっかりと写真に納めます。Kさんは、カメラを持ってこなかったと悔しそう。このユキノシタの群生は、かなり奥まで続いていました。

樹林帯を登っていくと車道に飛び出し、ほどなく子ノ権現に着きます。大きな埼玉県指定天然記念物の二本杉にビックリしながら、奥に入っていくと仁王像が待ちかまえています。さら

から幕山の岩を登るメンバーは、よだれを垂らしながらも、ビールには手を付けず、たっぷりと腹に入れたところで、岩場に向かいます。

幕岩は、多くのルートがフリークライミングの難しいルートですが、何とか登れそうな手頃な岩場を見つけて、私がトップで登り、ザイルをセットしてから、みなさんに楽しんでもらいました。今回、岩登りを経験したのは、健常者3名、視覚障害者3名です。はじめて登った視覚障害者のAさんも、しっかりと足場とホールドを探しながら、登っていました。

今回は、登山と、バーベキューとそして岩登りと、豊富なメニューを楽しめました。車を出してくださったNさん、そしてバーベキューの手伝いをいただいたみなさん、本当にありがとうございました。

に聖橋からの展望を楽しみ、天龍寺に着きます。子ノ権現(天龍寺)は、足腰守護の神仏ということで、境内には日本一大きいといわれる鉄のわらじが、立てかけてあります。足腰守護の神なら、もっと真剣にお祈りをしてくるんだと悔やまれます。



マタタビの花

昼食は、何とか風のあるところだと思いながら探していましたが、ようやく豆口峠のすぐ手前で風を感じたので、昼食とします。ただ、風は呼吸しているため、時々休んでしまいます。

豆口峠を過ぎて、竹寺の近くの尾根のピーク

に、今度は大きな鐘がありました。たぶん竹寺の鐘でしょう。YさんやEさんが、鐘を突いて楽しんでいました。ここから、小殿のバス停に下って、さわらびの湯に近道することもできたのですが、暑い道路よりは山道を歩いた方が楽

針ノ木岳(7月19日~21日)

参加者 会員(視覚障害者6名、健常者5名)
会員外(視覚障害者2名、健常者2名)

天気予報は、この3連休はあまり良くなかったのですが、最後の月曜日に晴れることを期待して、針ノ木岳と蓮華岳への山行を実施しました。

臨時のあずさに乗車して、信濃大町で岐阜から来るNIさん、そして車で来たNAと合流して、バスで扇沢に入ります。扇沢で昼食を取り、曇り空の下を、大沢小屋を目指して登っていきます。

沢を何度か渡っていくと、ようやく大沢小屋に到着しました。大沢小屋のご主人は、視覚障害者が多い我々のパーティーを心配していると言ってくださいます。私は、危険を感じたら、決して無理をせず、引き返しますからと言って、テント場の方に移動する。今回は、小屋の混雑がいやだと言う人などで、4名がテントにした。

次の日、朝起きると曇り空だが、薄日も差している。小屋に泊まった人たちと合流して、登山道を登っていく。対岸にかなり大きな雪渓が見えてくるころ、針ノ木雪渓に飛び出した。上を見ると、かなり急に見える。近くには、シラネアオイやオオバキスミレが咲いていた。

ここでみなさんにアイゼンを付けてもらい、雪渓を登りはじめる。もう少し、夏道を登ってから雪渓に出るのが本来のルートだが、視覚障害者の人たちには、雪渓の方が歩きやすいので、クレバスなどに注意しながら登っていく。

単調な雪渓を、視覚障害者の人に足場を教え

しいだろうと、仁田山峠まで行くことにします。最後の下りは滑りやすかったのですが、全員無事に仁田山峠に到着。あとは、さわらびの湯で汗を流すことと、冷えたビールを楽しみに、車道をぐんぐん下りました。

ながら、ゆっくり登っていく。天気は、非常に良くなってきた。サングラスを持ってこなかったのも、目を細めて歩くことにする。振り向くと、爺ヶ岳が優しそうな山容で佇んでいる。青空が広がり気持ちの良い登りだ。しかし、雪渓は、次第に傾斜を増してくる。



針ノ木雪渓を登る

2,200m 付近から雪渓が狭まり、喉と言われるところを通過する。ここから上の雪渓は、今まで

以上に急峻だ。力のある人たちは、



ショウジョウバカマ

先に登り、夏道の出ているところで待っている。こちらは、疲れが出てきた人たちと、ゆっくり登っていく。雪渓の切れた斜面には、ショウジョウバカマが咲いている。

夏道に出ても、そのまま雪渓を登り、12時頃、ようやく針ノ木小屋に到着。晴れていた空は、このころにはどんよりとした雲に包まれて

いた。小屋の受付をすませ、テントを設営して、疲れた人たちには小屋で待っていてもらい、元気の良いメンバーで針ノ木岳に向かう。

ここからは、高山植物が豊富だ。ウサギギクやヨツバシオガマ、キバナノコマノツメなどを見つけながら登っていくが、途中で雨が降りだした。山頂から下ってくるパーティーと行き交いながら登っていくと、行く手に雪渓をトラバースするところが出てきた。下りのことが心配だが、ロープを使って下ることにして、登っていく。



針ノ木岳山頂にて

山頂に着いたが、視界が聞かず、黒部湖などが見えなかった。それでも、山頂には、ミヤマオダマキなどが咲いていて、写真撮影を楽しませてもらった。記念写真を撮ってから、下りにかかる。問題の雪渓は、気休めの面があるが、ロープで確保して下る。ただ、今回持ってきたものは、短いため、途中でピッチを切ることになった。かなり厳しかったが、何とか全員雪渓を通過した。針ノ木小屋に着いて、今日の登山に乾杯し、テント組はテントに戻って、ゆっくり休む。

夜半には、何度かかなり強い雨が降っていた。朝になっても上がることはなかったが、蓮華岳に登りたいという人がいたので、5人で蓮華岳を往復することにする。こちらは、針ノ木岳より花の種類が少ないが、何と言ってもコマクサの大群落が素晴らしい。白花のコマクサも咲い

ていた。山頂付近では、がれきの斜面が、うっすらとピンク色に色づいて見えるくらい、一面に広がっていた。

山頂では、雨も降っていたが、霧の晴れ間か



コマクサ

ら、剣岳や鹿島槍ヶ岳、そして烏帽子岳などが見えました。



蓮華岳山頂にて

針ノ木小屋に戻り、残っていた人たちと合流し、下りの準備をします。今回持ってきたロープを使い、シュリングとカラビナを使って、全員がロープにつながって下ることになります。下りは、夏道から雪渓に入ることになります。雪渓は、急でしたが、誰もスリップすることなく、順調に下っていくことができました。喉の部分を通ると、傾斜も落ちて、ホッと一息です。しかし、神経を使った視覚障害者の人は、かなり疲れたようで、下るスピードが落ちてきました。

ようやく雪渓の終了点でアイゼンを外し、夏道に入っていきます。大沢小屋のご主人に無事に帰ってきたことを報告し、扇沢を目指します。扇沢には、最終のバスに何とか間に合うことができ、車中の人となりました。

参加者の方からお寄せいただいた感想文

今回は、針ノ木岳に参加した中村さん親子からいただきました。

題名：あすなる

生命の営みから離れた場所からその渦の中へ身を預ける。
と、たくさんの事が自分に入ってきて気付かせてくれる。
昼間の森は本当に騒がしかったし、日が沈み夜がくると草木は眠る。
そこにいる人たちは帰る家があって、開けるドアもある。
当たり前なことなんだけど、それを想像するのがすごく新鮮だった。
今回の山行でいちばんの収穫はテントで聞こえた声。
それがなんだったかは自分の中に閉まっておくけど、アレには驚いた。
山は色んなことを教えてくれるって誰かが言ってたけど、ホントっすね。

記：T . M

題名：針の木岳に参加して

2ヶ月ぶりの山。体調を崩してしまい当分山は、無理かと考えていた。病の事より山にいけなくなるのでは？と思うと張り合いが無くなり、全ての事に無気力になってしまった。会の山行の様子を見聞きしても、余計に焦り、自分の情けなさを嘆く日々が続いていた。予定していた山行を断念し、治療に専念すると決めたのに、理事長や仲間達からの暖かい言葉や励ましさえも自分に向かって、「誰も分かってくれない」と恨み言を吐いていた。

そして2ヶ月自分なりのトレーニングを積み、睡眠を十分とり体力の回復を目指し、目標を針の木に登ると決めて、いっしか以前の自分の感覚が戻ってきた。今回は、自分試しの山行と位置づけていたので、まったくサポートに自信が無かったことと、母親が普段関わっている事を知ってもらいたかったということもあり子供達に参加をしてもらった。

結果的には、私達親子にとってもそれから彼らにとっても忘れがたい1ページが日記帳に書き込まれたようである。

蓮華岳の山肌をピンクに染めたコマクサの大群落。

針の木岳頂上の雨に濡れたオダマキやイワギキョウ。

ドキドキして下りてきた雪渓。

山小屋での団欒。

なにやら頭から湯気を立てて心配をしつつ、説教をしてくれた山小屋のおじさん。

新喜劇顔負けのメンバー一人一人が錦の糸となり、すばらしい針の木岳山行を紡ぎりっぱな織物に仕上がった。これから又仲間達と山に登れる幸せを実感しつつ、息子と車の中で山行の話で盛り上がりながら、充実感というお土産を満載し横浜へ向かった。

記：H . N

鳥海山(8月9日～10日)

参加者 会員(視覚障害者2名、健常者3名)
会員外(健常者2名)

8月9日(土)

8日になって当初泊まる予定だった御浜小屋にキャンセルを入れ、代わって登山口にある銚立山荘に電話を入れたら、何とか7名は泊まれるとのこと。小屋には、コンロや鍋など調理器具や冷蔵庫はあるから、材料だけ買ってくれば良いと言っただき、夜行高速バスで酒田に着くと、スーパーの開店を待って、チゲ鍋と朝のうどんの材料を買い込んで、銚立行きバスに乗り込む。

まだ、それほど雨も風も強くなく、鳥海山も見えていた。しかし、銚立付近は、かなり風が強くなっていた。この日は、銚立山荘で、懇親会を楽しみ、夜7時頃には眠りについた。

8月10日(日)

朝、早く出発しようと4時頃起きるが、まだガスが深く雨も降っている。取りあえず朝食を食べ、様子を見るが、雨も風も強そうなので、出発を遅らせることにして、もう一眠りする。8時頃雨が止んだようだという声に目が覚め、出発することにした。



雨の中を登りはじめる

歩きやすい石畳の道を淡々と登っていく。まだ霧が深く、時折雨が降ってくるので、雨具を着込んで歩く。賽の河原付近は、高山植物が美しい。ニッコウキスゲやヨツバシオガマが咲き乱

れていた。あまりきれいに感じなかったアザミは、チョウカイアザミのようだ。

賽の河原を過ぎ、左手に笹原が広がり始めると高山植物は一気に増えてきた。ハクサンフウロやコウメバチソウ、イワショウブなどなどたくさんの花を見ながら登っていくと、ようやく御浜小屋に到着。スタートした頃は、御浜小屋まで行ければ良いかなと思っていたが、天気が良くなってきたので、もう少し行ってみることにする。すると、今まで雲に隠れていた山頂が姿を現してきた。鳥海湖も見えてきた。気分がハイになって、七五三掛近くまで行くことにして、出発する。



鳥海山をバックに記念写真

少しずつ霧が晴れて、鳥海山がよく見えるようになってきた。この付近になるとハクサンシャジンが多くなる。チョウカイフスマもはじめて発見。七五三掛手前の御苗代に着いて、今日はここから引き返すことにして休憩したが、あまりにも天気が良く、みんな元気なため、もう少し行ってみることにする。帰りのバスは間に合わなくなるが、今日の帰りの夜行高速バスには十分時間があるので、午後2時を行動限界の時間として、それまで行けるところまで行くことにする。

七五三掛からトラバースをして、千蛇谷雪渓を横切って登っていく。ここは雪渓をそのまま登った方が楽だった。NさんとKさんには、できれば山頂に立ってもらいたいと思い、先に行

ってもらふことにする。彼らは、大勢で下ってくる読売旅行のツアー客の間を縫って、元気に登っていった。



チョウカイフスマ

後に残ったメンバーは、2000m 付近で待っているからというTさんに甘えさせてもらって、さらに登ってみた。14時を少し回った頃、ようやく御室小屋について、先行していたNさんとKさんに合流した。Kさんは山頂はあきらめたが、Nさんは30年ぶりの山頂に立つことができたそうだ。思いを叶えてもらえて、本当に良かったと思う。御室小屋の近くには、チョウカイフスマがたくさん咲いていた。外輪山の向こうには、月山がよく見えていた。

雨などで中止になった山行

- ・ 浅草岳・・・雨のため中止しました。
- ・ 谷川岳・・・雨のため中止しました。
- ・ 甲武信ヶ岳・・・参加者不在のため中止しました。代わりに子ノ権現を実施しました。
- ・ 朝日連峰・・・参加者不在のため中止しました。

個人山行報告

高川山(6月30日)

参加者 会員(視覚障害者2名、健常者3名)

あまりメジャーな山じゃないから静かな山行になるかと思ったら初狩では学生たちが読図山行で、たくさん来てました。

初狩から上り始めて最初の分岐点で、平常コ

—

写真を撮ったりしていたが、あまりゆっくりしている時間はないので、早々に下山にかかる。私は、一足先に下って、待っているTさんと合流し、少し早めに下りはじめる。御苗代でみんなが合流し、すっかり晴れ上がった、真っ青な空の下を気持ちよく下っていく。御浜小屋が近づく頃、目の前にはきらきらと光る海が広がっていた。南の方には、月山と朝日連峰が連なり、海には飛島や淡島が浮かんでいた。



鳥海湖と月山、朝日連峰

タクシーを呼んでもらうため、元気なNさんに先に下ってもらふ。銚立山荘に挨拶をして、タクシーに乗って、日本海に沈む夕日を見ながら、帰路についた。



高川山山頂にて

スと冒険コースがあり健脚な私たちは、もちろん冒険コースへ進みます。天気は曇りですが、梅雨のジトとした暑い熱気で体から湯気を出しながら歩く。二つ目の分岐点で、のんびりと女坂を進む。

山頂には10時半くらいについてしまい1時間の休憩。山頂では、置き去りにされた犬が「おながすいたよ～」と目で訴えていて、心やさ

前穂高岳北尾根(8月2日～3日)

参加者 会員(健常者2名)

8月2日から3日にかけて、男二人で前穂高岳の北尾根という岩登りもあるバリエーションルートに行って来ました。

8月1日の夜行快速列車 ムーンライト信州)で、松本まで行き、2日はそのまま潤沢経由で北尾根の5、6の科尔と言うところまで登り、ツェルトで泊まりました。ここまで、ザックは20kg前後あり、特に最後の5、6の科尔への登りは、二人ともバテて、なかなか行程がはかどりませんでした。

3日は、潤沢から登ってきた2パーティーの後を追いかける形で出発しましたが、ザックの重さが違い、引き離されるばかりでした。5峰は、難しい岩場もなく難なく越え、もろいと言われる4峰に取り付きませんが、ここもそれほど問題はなく、通過しました。

そして、核心部の3峰は、お互いをザイルで繋ぎあって、確保しながら登ります。

しいYさんとMさんが昼飯をわけてやってくれました。展望は、ガスでほとんど見えませんでした。かなり開けていて天気がよければ、最高の写真スポットになること請け合いですね。でも、この展望の良さは、人為的に、周辺の木を伐採してしまったと言う事です...

禾生の下りは、鳥の声を聞きながら、あっという間でした。新宿には3時くらいについてしまいました。

今回、私 栗谷川が初リーダーとして任せていただきましたが一つ反省すべき点は、コースタイムを良く把握して集合時間をもっと遅くすべきでしたね。これからも、何回もリーダーを経験して覚えていきたいと思います。皆さんありがとうございました。

記：M・K



北尾根3峰凹角を登るSさん

途中、大きな岩の詰まった幅1.5m程度の割れ目(岩が詰まっているのをチョックストーンと言います。また人が入れるような大きな割れ目はチムニーと言います)は、ザックがじゃまをして登れないため、ザックを岩の下に置いて登りました。気持ちの良い由角を快適に登りさらに慎重に岩稜を超えると、前穂はすぐ目の前でした。

前穂高岳でゆっくり休み、急な重太郎新道を下って、上高地に帰り着きました。岩の山は、誰でも行ける場所ではありませんが、やっぱ

各種報告事項

打合会を実施(6月29日)

今後の山仲間アルプの活動内容について、世田谷区の池尻地区会館で打合会を実施しました。

結果は、我孫子市が募集している「市民活動元気づくり事業」など、行政と連携し、地域社会に障害の有無に関わらず、共に生きることの

大切さを伝えるため、共に楽しむハイキングなどを実施していくことを決めた。

また、今回参加できなかった方から要望のあった、孤児などとの登山や、千葉県以外の行政とのタイアップなどについても、今後検討していくことにしました。

我孫子市「市民活動元気づくり」事業提案のプレゼンテーションに出席(7月13日)

我孫子市が千葉県と共同で進める「市民活動元気づくり」事業への提案募集(主なテーマは、スポーツ振興と商店街の活性化)があったため参加し、我孫子市役所でプレゼンテーションを行った。しかし、まだ活動実績が少ないこともあり、採用には至らなかった。ただし、他のNPO法人との交流を持つことができ、大変有意義であった。今後もこのような企画には、積極的に参加すると共に、地域社会へのサービス

提供に力を入れる必要性を感じた。



法人認証を得て登記を完了(7月29日)

4月23日に千葉県にNPO法人の申請を行っていましたが、7月22日に認証があり、法務局で登記の手続きを完了し、晴れてNPO法人として再スタートすることになりました。今

まで同様の共に楽しむ登山と共に、地域の人たちと共に楽しむハイキングなども、今後実施していきたいと考えていますので、みなさまのご協力をよろしくお願いいたします。

ホームページ情報

ホームページのアクセス数は、8月14日現在2400に達しました。ホームページには、山仲間アルプの紹介、NPO法人のQ&A、山行計画、山行報告、講習会などの計画と報告、掲示板、リンク集などがあり、ホームページから入会申込みや参加申し込みなどができるようになっています。写真も豊富に使って、楽しめるホームページづくりを心がけています。また、視覚障害者の人も読みやすいように、文章を中

心としたテキストページも用意しています。

7月には、北アルプスや八ヶ岳の山小屋や長野などの県響、ICI石井スポーツなどの登山用品店、山の書籍専門店の茗溪堂、さらに知り合いになれたNPO法人などをリンク集に追加しました。@niftyの自然とのふれあいフォーラム、日本野鳥の会、山の好きな個人、六つ星山の会などの障害者と登山をする団体、その他山岳会などにリンクをさせていただいています。

また、トップページにバナー広告を掲載し、クリックしたり、リンク先のサイトで商品を購入すると、売り上げの約1%ほどをキャッシュバックしてもらえ、アフィリエイト広告も追加しました。これで得る収入はほんの僅かですが、法人の収益事業の一環とさせていただきます

す。

トップページには、一部ですが、山小屋の最新情報なども掲載しています。

また、インターネットを利用していない方で、これから初めて見たいという方は、事務局にご相談ください。

その他報告事項

- ・ 山と渓谷 8月号に会員募集を掲載しました。
- ・ 朝日連峰が中止になったため、急遽7月5日に岩登り講習会を実施しました。急な決定で、会員のみなさん全員に連絡できなかったことをお詫び申し上げます。

今後の計画

山行計画

今後の山行計画は、別紙 2003 年度山行計画をご覧ください。なお、甲府から広河原へ通じる南アルプススーパー林道が、土砂崩れでまだ

通行不可のため、木曾駒ヶ岳と三沢岳に変更しましたので、ご了承をお願いします。

講習会計画

今年度は、気象講習会を予定していますが、まだ日程や場所が確定していないため、確定次

第、みなさまにお知らせいたします。

来年度行ってみたい山などを募集

来年4月から再来年3月までの年度に実施する山行や講習会の計画を準備中です。ぜひ、こんな山に行ってみたいとか、こんなことを講習会で取り上げて欲しい、またこんな事業を検

討して欲しいという意見をどしどし事務局までお寄せください。山行のうちに、役員に申し出ていただいてもかまいません。みなさんで山仲間アルプを作っていきましょう！！

感想やご意見を募集します！！

山行に参加してみた感想を、ぜひ事務局までお寄せください。また、個人的にこんなところに行ってきたよとか、最近こんなことを思って

いるなどのご意見を随時募集中です。事務局まで、ぜひお寄せください。

個人山行の計画

個人山行を計画されている方は、事務局まで計画書を提出ください。計画書を提出していないと、スポーツ保険の対象にならない可能性が大です。もしもの時のために、必ず提出するよ

うに心がけてください。

また、個人山行を計画している方で、みなさんに声をかけて募集したいという方は、事務局までご連絡ください。青い鳥はがきなどで、会

員のみなさんに通知する作業を事務局の方で行います。

編集後記

・理事長のつぶやき

ある障害者と健常者が共に登山を楽しむ会にいる障害者の方と、メール交換をしていたのですが、そこに山仲間アルプが掲げる「障害者対ボランティアという関係を越えて、より良い人間関係を築きたい」というものの見方・考え方は、これまで活動してきた会でも実際にはなかなかできていないのが現実だということが書かれていました。その方は、山仲間アルプの考え方が、少しでも伝わることを祈っていると

言ってくださいました。

山仲間アルプが真の目的とする部分は、言葉で表現することも難しく、誤解を招きやすいので、ここでは控えますが、障害がひとつの個性として尊重され、障害の有無に関わらず普通の健常者同士と同じ人間関係が築かれることを願って止みません。いつか、きっとそう言う日が来ることを信じて、みんなでお互いを尊重し合って共に山を楽しみましょう。

障害の有無も、年齢も、男女も関係なく、みんなで山を楽しみたいね。自然は、誰に対しても平等だよ！！

